

ホテルモンテレ沖縄 スパ&リゾート

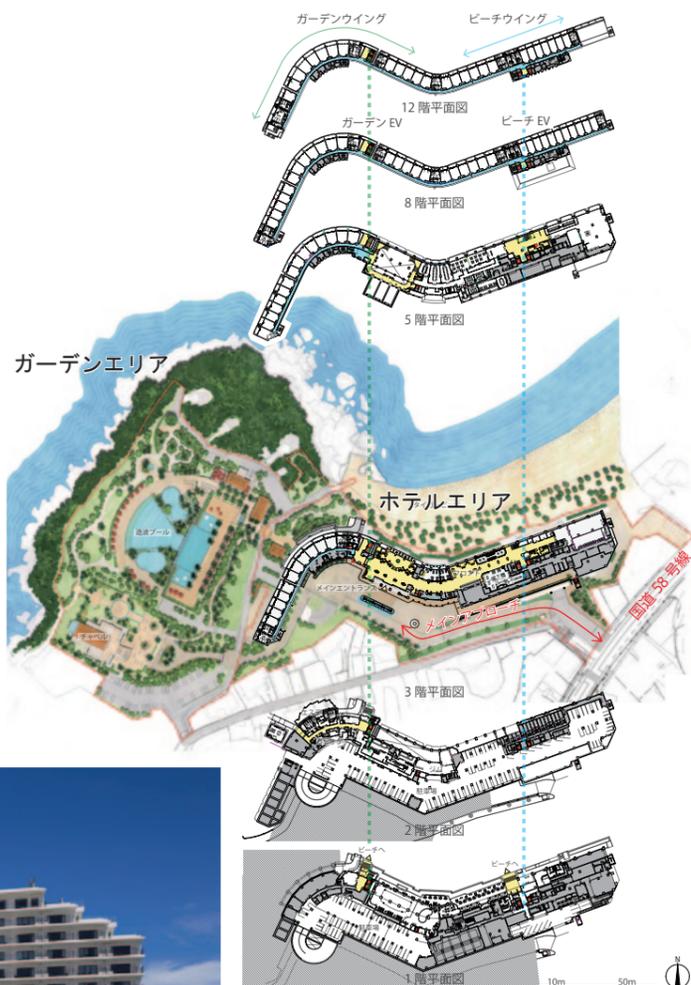
Hotel Monterey Okinawa Spa & Resort

No. 05-035-2014作成
新築
ホテル

発注者	マルイト株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO ₂ 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN		E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携
施工	鹿島建設		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他	

海岸に面した豊かな自然と共生するホテル

本計画は沖縄本島西海岸のリゾートホテルプロジェクトである。敷地は恩納村タイガービーチと緑豊かな半島に面しており、美しい沖縄の自然の恩恵を受けている。本計画敷地は公道により2分されており、国道寄りの「ホテルエリア」に、メインの施設であるホテル棟（339室）が計画された。建物は恵まれた自然環境を享受すべく、海に対する開口を確保するため全長240mの形態とし、全客室オーシャンビューを実現した。国道側隣地に対する配慮から距離をとった配置とし、長大さを感じさせないリズムカルなファサード、コアによる分節、エレメントの細分化を図った。海側のファサードは開口が最大限確保され、室内に風景を取り込むのと同時に中間期には通風が確保できる建具形式とした。2分された敷地の北西「ガーデンエリア」には、沖縄の気候に適した植栽や扇形の造波プールを中心とした低層の施設群を配し、敷地の高低差を活かしたランドスケープを創出している。特に遠方の半島や近隣まで様々な視線を考慮し、植栽の配置ボリュームの決定がなされた。美しい自然環境は時に厳しい様相を見せることから、災害時の対応を考慮したBCP体制の構築についても注力した。CASBEEは、Sクラスを達成している。



造波プール越に見た客室棟、左端がフルーツガーデン、多様な水深のプール

配置・平面構成図

まちなみ・景観への配慮

隣接建物から最大限隔離をとった高層棟の配置とし、間に緑地帯のバッファゾーンを設けることで、周辺への影響を低減するよう配慮を行っている。

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	PAL削減 38 %	Sランク
竣工年	ERR (CASBEE準拠) 33 %	BEE=3.0
敷地面積	LCCO ₂ 削減 36 %	2010年度版 自己評価
敷地面積		
延床面積		
構造		
階数		

生物環境の保全と創出

自然公園法第2種特別地域に指定されているガーデンエリアでは、既存植栽移植による保全、および熱帯果樹種を集めたフルーツガーデン、その他自生種の保全に配慮した緑地づくりを行い、緑化率30%を確保した。また水際環境を再現したタッチプールでは、施設利用者が生物とふれあい、自然に親しめる環境を確保している。



フルーツガーデン



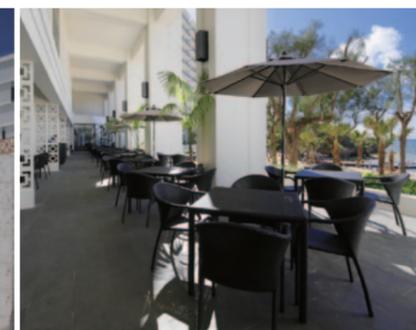
海岸からの俯瞰全景



メインエントランス



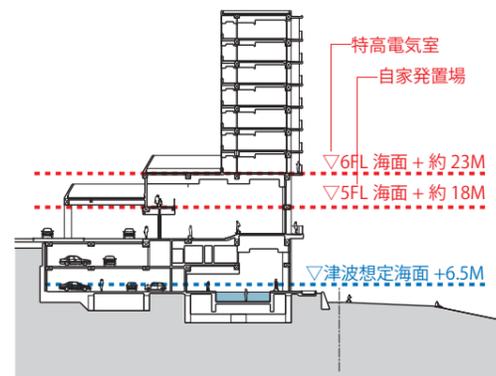
アプローチ



ビーチカフェ

地域性・アメニティへの配慮

建物の各所に琉球石灰岩や花ブロックなど地域性のある素材を利用している。また、各所で半屋外のカフェなど中間領域の形成を行った。一部敷地を村道拡幅のため提供し整備も行っている。



水害レベルを想定した電気室配置



風洞実験

BCPを考慮した電気設備配置

主要電気室は高潮、想定津波以上のレベルに設置している。さらに十分なオイルタンクを設置し系統分けにより最大1週間の電力供給が行えるようBCP対策を行っている。

風害の抑制

風洞実験を行い、環境評価を行っている。評価に従い、植栽を施し、周辺への影響を低減するよう配慮を行った。

設計担当者

統括：三村賢太郎／建築：三村賢太郎、松竹利彦、酒井伸弘／構造：工藤利昭、遠藤幸雄／設備：蒲地 真、小川健次／インテリア：髙伊麗ア／外構：髙ランドスケープデザイン

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2. 2. 耐用性・信頼性 (BCP対応)
- Q3. 1. 生物環境の保全と創出 (地域の郷土種への配慮)
- Q3. 2. まちなみ・景観への配慮 (建物配置や形態のまちなみのとの調和、地域性のある素材採用)
- LR2. 1. 水資源保護 (節水型機器採用、雨水利用)
- LR3. 2. 地域環境への配慮 (交通負荷軽減)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (風害抑制)